

① **香雲寺** (香雲寺参道入口・1995年頃撮影)



(大藤氏の墓・2019年撮影)



香雲寺は1564年(永禄7)、大藤政信が羽根にあった春窓院を現在の地に移し再興した寺です。後北条氏の家臣の大藤氏は「北波多野」一帯を所領とし、1561年(永禄4)の長尾景虎(後の上杉謙信)の小田原攻めでは、景虎軍6人を討ち取るなど、数々の手柄をあげました。開創年代は1486年(文明18)以前と推定されており、曹洞宗の寺として市内で最も早く開かれた寺です。本堂の裏に、2つ並んだ墓石(上写真)があり、左側は不明ですが右側が大藤政信の墓とされ、寺には位牌もあります。1629年(寛永6)に鑄造された梵鐘は、第二次世界大戦の際にも供出を免れた市内に現存する鐘の中では最も古いもので、「大藤秀信」の名が見られます。

※大藤の読み方は、「おおふじ」「おおう」「だいう」と、複数の説がありますが、『神奈川県史』では「だいう」と記しています。

② **伝・田原城**

香雲寺裏手には、1590年(天正18)豊臣秀吉の小田原攻めの際に、大藤氏が50騎で守ったという相州田原城の伝承地があります。ここには中世領主居館を示す「堀ノ内」という小字名が残っています。その他、東田原の小字「前原」の台地も田原城の候補地の1つにあげられます。大藤氏は1590年(天正18)豊臣秀吉による小田原攻めの後、生き残った北条氏直から主従の関係を解かれ自由を保障されますが、その後の動向は分かっていません。

《東・西田原ゾーン》中世のおもかげを求めて

東・西田原は、盆地を取り囲む里山と一帯に広がる田畑が秦野の原風景として残っている所です。

ここは、平安時代末、秦野を拠点として成長し、鎌倉幕府の御家人となった波多野氏に関連する遺跡や伝承が多く残る地域です。相次ぐ戦乱に巻き込まれ、秦野での波多野氏の痕跡はしだいに薄れ、戦国時代では後北条氏の家臣で足軽大将や中郡郡代を務めた大藤氏の墓が香雲寺に残されています。その近くには豊臣秀吉の小田原攻めの資料に登場する田原城の伝承地があります。

③ **伝・中世の市場(上宿周辺)** (東田原の風景・撮影年不明)



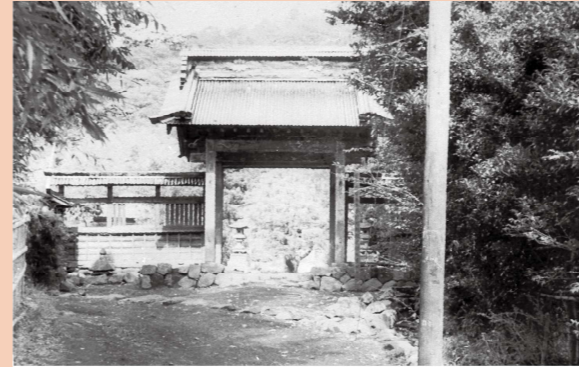
1680年(延宝8)の古文書によると、戦国時代北条氏5代目の氏直の頃から田原で市が開かれたと記されています。その場所がどこであるかは不明ですが、その後田原の市が潰れ、新しい市が曾屋村の十日市場(四ツ角周辺)で開かれたようです。

④ **東田原神社** (2020年撮影)



東田原神社は江戸時代まで道明寺という寺でした。道明寺は真言宗の寺で、その土地の領主であった米倉丹後守昌尹の冥福を祈り、子の昌明が家臣に命じて元禄年間(1688~1704年)に開創しました。1868年に起こった廃仏毀釈により東田原神社となりました。米倉氏が大工の名工に造らせた建物を村民が壊すことを惜しみ神社として残したと伝えられています。そのため、社の造りに寺の名残を見ることができます。また、東田原神社は江戸時代に東田原村の鎮守であった八幡宮を遷宮したものです。

⑤ **金剛寺** (1955年頃撮影)



もともとは小寺であったと言われ、有力御家人三浦氏の家臣であった武常晴が源実朝の首を持参し、埋葬したのが始まりと伝えられている臨濟宗の寺です。実朝の法号金剛寺殿にちなみ、金剛寺と改めました。1250年(建長2)波多野忠綱が実朝の33回忌に再興しました。寺には源実朝坐像が安置されています。

⑥ **東田原中丸遺跡(田原ふるさと公園)**

(東田原中丸遺跡・2000年撮影)



田原ふるさと公園周辺の東田原中丸遺跡からは、各時代の遺構、遺物が発見されました。とりわけ、中世に関しては、貿易陶器の青磁、白磁、鎌倉周辺以外はあまり出土しない白かわらけなど、中世の武士の館跡を思わせる遺構、遺物が数多く出土しました。当時この付近を本拠地としていた波多野氏の館跡と考えられています。この遺跡は16世紀戦国時代になると墓地となり、江戸時代には畑となっていました。

⑦ **源実朝公御首塚** (市指定文化財)

(実朝公御首塚・1965年頃撮影)



鎌倉幕府三代将軍源実朝は1219年(建保7)、鶴岡八幡宮参詣の帰りに甥の公暁に殺されます。『吾妻鏡』には首の無いまま埋葬されたと書かれています。また、『愚管抄』には首は岡山(鶴岡八幡宮裏手)の雪の中にあつたと書かれています。その後の行方については書かれていません。秦野では三浦氏の家臣武常晴が首を見つけこの地に埋葬したと伝えられています。その際、木造の五輪塔が建てられ供養されましたが、実朝の死から32年後、波多野忠綱が金剛寺を再興した際に石造に替えたと伝えられています。木造の五輪塔は現在、鎌倉国宝館に収蔵されています。

⑧ **伝・波多野城址** (1955年頃撮影)



波多野氏は、平安時代末期から秦野盆地から足柄平野にかけて勢力を伸ばしていった一族です。江戸時代に書かれた『新編相模国風土記稿』では、波多野氏の館が寺山小附にあったという伝承を取り上げており、1919年(大正8)に「波多野城址」という大きな石碑が建てられました。碑文は当時の中郡長武田巖作によるものです。しかし、今までの調査ではこの周辺から館跡は確認できていません。